

御上洛御供、其外御用ニ而罷出候節、分限高ニ應じ被下之、尤万石以下關越候得バ一倍關無之所ハ貳拾五里外ハ一倍、關内并貳拾五里内ニ五割増、万石以上ハ關所有無、并道法遠近ニ不拘五割増、京大坂伏見長崎御番所、万石已下ハ知行高一倍、万石以上ハ五割増、駿河御番ハ、万石已下廿五割増、被下之定法也、

一金壹人扶持、一度玄米貳合五勺ニ定りたるハ、寛永年中、松平伊豆守信綱執政之時、御工夫ヲ以、貳合半之定法始る、一説ニハ秀吉御代始りしといふ説あれど、政談ニも信綱始めたまふとあれバ定説なるべし、又軍中籠城等兵糧ハ壹人前晝夜三升と宛る法の由なり、

〔營中御日記三〕寛永三年五月五日、今度備中守正阿部大坂御番當番被仰付之間、御加増三万石都合八万五千石被下之、以五万石之軍役、大坂城可守衛旨、外月俸七百五十人扶持、被下旨、於御垣之間、酒井雅樂頭、土井大炊頭列座、雅樂頭傳上意之趣、

〔營中御日記十六〕寛永十八年四月十二日、昨日西丸へ御成、即刻還御之處、御供之面々欠如有之哉、不致供奉候ニ付、甚以御氣色不快、御吟味之處、當番小十人頭本目權兵衛改易、彼組之内、

天野兵右衛門人以下七姓名略
右之輩、御扶持被放之、

扶持渡方

○按ズルニ、扶持ヲ召上グル事ハ、法律部下編役儀召放篇ニ詳ナリ、宜シク參看スベシ、

〔淺草米廩舊例〕毎月御扶持之日

六日十二日十八日 但十二月ハ二日九日

御金渡リ日

朔日十日十八日廿四日略○中

毎月定扶持渡玉場石數日數左之通り